

大阪・関西万博関係府省庁連絡会議（第1回）

議事要旨

日 時： 令和2年3月1日（月） 14：30－15：00

場 所： 合同庁舎4号館 123会議室

出席者：

（議長）	国際博覧会担当大臣	井上信治
	国際博覧会担当副大臣	長坂康正
（副議長）	内閣官房国際博覧会推進本部事務局長	藤井健志
（副議長）	経済産業省商務・サービス審議官	畠山陽二郎
	2025年日本国際博覧会協会 事務総長	石毛博行
	内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長	高科淳
	内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長	大内聡
	内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長	大高豪太
	内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長	宇山智哉
	内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）	木村聡
	内閣官房危機管理審議官	松本裕之
	内閣官房内閣参事官（内閣広報室）	久津摩敏生
	内閣官房イノベーション推進室イノベーション総括官	赤石浩一
	内閣府政策統括官（防災担当）	青柳一郎
	警察庁長官官房総括審議官	櫻澤健一
	復興庁統括官付参事官	石川靖
	総務省大臣官房企画課長	望月明雄
	出入国在留管理庁次長	松本裕
	外務省経済局長	四方敬之
	財務省大臣官房総括審議官	新川浩嗣
	文部科学省大臣官房総括審議官	串田俊巳
	厚生労働省政策統括官（総合政策担当）	伊原和人
	農林水産省大臣官房政策課長	山口潤一郎
	国土交通省総合政策局長	石田 優
	観光庁次長	高橋 一郎
	環境省総合環境政策統括官	和田篤也
	防衛省大臣官房審議官	町田一仁

1. 冒頭挨拶

○井上大臣

・昨年末に政府の基本方針を閣議決定し、博覧会協会も基本計画を策定。各国への招請活動も進めている。私自身、これまでに45カ国1機関に対して参加招請を行い、現在10カ国程度から正式な参加のお返事をいただいているところ。

・1970年の大阪万博から半世紀以上経ち、愛知万博からも相当時間が経っている。関係府省庁においては、前例にとらわれず新たに万博を作り上げるという気持ちで取り組んでいただきたい。

・一例を挙げると、地元からも要望されている「空飛ぶクルマ」は、初めての技術・サービスであり、現時点では制度等が未整備の状況。これから新しい制度を作っていく必要がある。

・関係府省庁においては、規制改革や予算などに関し柔軟に対応いただき、規制があってできない、あるいは予算が足りなくてできない、ということで万博がうまくいかないということにならないよう、私から強くお願いしたい。

・国を挙げての国家プロジェクトであり、縦割りを排して、前例を打破して、臨んでいただきたい。

2. 事務局等からの説明

○高科国際博覧会推進本部事務局次長

・昨年9月に国際博覧会推進本部を設置。その後、12月にBIE総会で、大阪・関西万博の登録の承認をいただき、各国への参加招請活動を開始した。すでに各省には大臣から閣僚懇で各国との会談などの際に参加の働きかけをお願いしたところであり、引き続き、ご協力をお願いしたい。

・今後は、全国での機運醸成、企業等の積極的な参加の促進、各国への参加招請活動などとともに、大阪・関西万博の具体化に向けた検討が課題になってくる。

・各府省庁におかれては、それぞれの政策を実現する上で大阪・関西万博の会場を未来社会の実験場として活用することができないか、検討を進めて頂きたい。

・その際、規制改革や予算措置についても具体的な検討をお願いしたい。また、パビリオンでの展示や催事の実施についても、具体的な検討をお願いしたい。

・大阪・関西万博の前に各府省庁・関係機関等で実施される各種イベント等についても、大阪・関西万博の機運醸成を図る機会を設けるなど、大阪・関西万博との連携をご検討いただきたい。

・昨年の国際博覧会推進本部で本関係府省庁連絡会議の設置を決めたところ。具体的な内容について議論すべく課長級の幹事会や、専門的な内容について議論するサイバーセキュリティ分科会、テロ対策等分科会、出入国分科会を設置し、議論を深めていく。

○石毛博覧会協会事務総長より説明

・平素より、職員の派遣を含め、各省の協力を深謝。協会の人員拡充はこれからであり、

引き続き、ご協力をお願いしたい。

- ・昨年末に基本計画を策定した。今年は、各国の参加と企業の参加にしっかり取り組んでいく。また、今後、分野ごとに詳細な計画を1～2年かけて作っていく。

- ・2023年に入場券の前売り販売とパビリオンの建設工事が始まる。

- ・各国が独自に建てる「タイプAのパビリオン」については50館を今年の6月末までに、協会が建物を用意して各国が内部の展示を行う「タイプBとCのパビリオン」については、今年の12月末までに、申請してもらう予定。ただしドバイ博が始まっていないタイミングでもあり、各国、意思決定に苦労している状況。政府、経済界一体となって各国の参加招請に努力していく必要があり、引き続き、ご支援をお願いしたい。

- ・企業の参加について。パビリオン出展、テーマ館などへの協賛をお願いすることになる。今年夏頃にパビリオンや協賛についての説明会を行い、年内には企業参加のメドを付けたい。

- ・未来社会ショーケース事業については、会場整備から運営、展示、催事に及ぶ万博全体が、未来技術の実験・実証の舞台となることから、各省庁の施策と結び付けて是非活用頂きたい。また、各省におかれては、骨太方針などにも盛り込んで頂き、規制撤廃・規制改革も併せて準備を進めてほしい。

3. 意見交換

○畠山経済産業省商務・サービス審議官

- ・2050年カーボンニュートラルについては、例えば、空中から二酸化炭素を直接回収する装置などを会場に据え付けることや日本の革新的な技術を世界に向けて発信していくことを検討していきたい。

- ・各省庁ともこれから具体的に検討を進めていきたい。

○松本内閣官房危機管理審議官

- ・「セキュリティや安全安心の確保」に向けて、テロ・サイバーセキュリティ対策、自然災害対策、水際対策などの重要課題について、問題点を一つひとつ検証し、対応していく必要がある。

- ・本日、テロ対策等分科会とサイバーセキュリティ分科会の設置を決定していただいた。こうした場をフルに活用し、万博の安全対策を迫及していきたい。

○赤石イノベーション推進室イノベーション統括官

- ・今の時代、先端技術をただ並べるだけでは世界から評価されない。そこにどんなコンセプト・デザイン・メッセージがあるのかが極めて重要。万博の中に素晴らしいプロデューサー・デザイナーがいらっしゃるので、一体どんなメッセージを出していくのか、協力して早めに検討を進めていただくことが極めて重要。

- ・東京オリンピック・パラリンピックでも同じような議論を数年前に行い、実際にオリンピックがコロナの前に始まろうとしていたところに、色々な技術を持ち込もうとしたが、いろいろな課題に直面した。今回、早め早めにこのような打ち合わせをさせていただける

のは大変重要。

○櫻澤警察庁総括審議官

- ・開催期間が半年間という長期にわたる上、国内外の要人の来訪も続くことが想定されることから、継続的な警備に必要なインフラ、環境を構築する必要がある。
- ・また、極めて深刻なサイバー空間の脅威への対処や、多数に上ると見込まれる来場者等の安全かつ円滑な輸送のための交通対策を含め、関係機関と連携しつつ、警察組織の総合力を発揮した対策を推進していく。

○望月総務省大臣官房企画課長

- ・大阪・関西万博を見据え、AIによりビジネスや国際会議等に対応した実用レベルの同時通訳を実現すべく研究開発を進めている。
- ・また、「Beyond 5G推進戦略」を策定し、5Gがあらゆる分野や地域において浸透し、徹底的に使いこなされているいわゆる「Beyond 5G ready」な環境づくりに向けた成功のモデルケースを多数創出し、その成果を万博で示していきたいと考えている。
- ・具体的には、5Gを含めた情報通信インフラの会場での整備、AIによる高度な多言語同時通訳等のサービス等の実装やオンライン上での外国人来訪者の受入れ環境整備、「Beyond 5G readyショーケース」としての先進事例の展示といった形で協力していきたい。

○串田文部科学省総括審議官

- ・宇宙、海洋、情報科学技術、健康・医療などの様々な分野における最先端の研究開発成果や、文化芸術分野における我が国の伝統的な文化や最先端技術等を用いた各種アート・デザインやポップカルチャー等について、万博の場を通じて日本の魅力を世界に積極的に発信していきたい。

○山口農林水産省大臣官房政策課長

- ・大阪・関西万博を契機として和食の魅力を世界に強力に発信し、「農林水産物・食品輸出立国」として更なる輸出拡大につなげていきたい。
- ・来訪者に我が国の農林水産業・食品に係る先端技術や環境面での対応について理解を深めていただき、関連産業の発展につながるよう、関係省庁、団体等と連携して対応していく。

○石田国土交通省総合政策局長

- ・最先端のモビリティ技術が実証できるよう取組を進めていく。特に、空飛ぶクルマについては、来年度のできるだけ早い時期に、試験飛行のガイドラインを策定・公表するなど、2023年には事業スタートに向けた環境整備をできるように官民一体となって順次進めていく。
- ・またこの他にも、会場周辺のインフラ整備や交通アクセス機能の確保、訪日プロモーションの推進や国際線受入機能強化のための関西国際空港第1旅客ターミナルビル改修事業

への支援、海上警備等のセキュリティ、機運醸成のための記念自動車ナンバープレートの発行等、しっかりと取り組んでいく。

○和田環境省総合環境政策統括官

- ・万博のメインテーマを支えるキーツールとして技術とイノベーションを含めて掲げられている。そのキーツールを何の目的に、というところで環境省は貢献できる。
- ・カーボンニュートラル、サーキュラー・エコノミー、さらには自然共生社会など、未来に希望を持てる、理想のコンセプトを出していけるような社会デザインにしたい。

○長坂副大臣

- ・私は、子供の頃に通った1970年大阪万博はじめ、ハノーバー万博、上海万博、ミラノ万博等を視察し、愛知万博の準備・開催にも県議として関与した経験を持つ。
- ・万博は、オリンピック以上に、Beyond 5Gやカーボンニュートラルなど、未来社会の実験場という、夢を与えられるイベント。若者をはじめ来場者に夢やワクワクを感じてもらえるよう、官民が一丸となって、皆さんの叡智を結集していただきたい。
- ・多くの人にとっては、東京オリンピックやドバイ博が終わらない中、万博はまだという時かもしれないが、今のうちからしっかりと準備が必要。特に、規制改革は時間を要するので、積極的に取り組んで頂きたい。
- ・万博は日本の魅力を発信する絶好の機会なので、日本経済の活性化につなげていくべく、ご協力をお願いしたい。

○高科国際博覧会推進本部事務局次長

- ・大阪・関西万博に向けた取組の具体化を始めとして、各種の準備に引き続きご協力をお願いする。ご説明した幹事会・分科会につきましては、本会議を以てその設置を決定とさせていただきます。

4. 閉会挨拶

○井上大臣

- ・本日出席の関係府省庁から、色々な発言・提言をいただき感謝。
- ・私は1969年生まれであるので1970年大阪万博の記憶はないが、大臣就任以来、毎週のように大阪・関西に出張してきたが、1970年大阪万博の素晴らしい思い出をもっていらっしゃる方が非常に多いと感じている。半世紀以上も経っているが、たくさんの方が思い出を熱く語ってくださる、これは本当に素晴らしいことである。ぜひ、2025年の万博を素晴らしいものにして、今の子ども達が半世紀経って「あの時の万博は素晴らしかった」と言ってくれるようにしたいと考えている。
- ・その反面、危機感も感じている。当時と今とは全く時代が違う。70年大阪万博当時は高度経済成長期であり、未来が描きやすく、万博も仕掛けやすかった時代だったと思う。
- ・現代は価値観が多様化し、社会が成熟化した時代。未来を見通すことは非常に難しい。

また、民間企業の力が強く、国の力が無くても魅力的なテーマパークが生まれている現実もある。加えて、若い世代がオンラインで何でもできる時代に、バーチャルもとりいれるとはいえ、万博はリアルの会場で開催するもの。そうした現代にあって、国が、リアルの会場において万博を開催し、あの1970年大阪万博と同じように若い世代をはじめとする多くの人を魅了する、ということは決して簡単なことではない。

・是非、関係府省庁におかれては、それぞれ大きなチャレンジなのだにとらえ、新しいことをやっていく姿勢で取り組んでいただきたい。皆さんと協力して進めていきたい。

以上